



http : //www.hica.info



暮らしから考える北のデザイン研究会セミナー報告

『暮らしから考える北のデザイン研究会(略称:暮研)』の第二回セミナーを



9月26日(水)に開催しました。今回は鞆内田洋行北海道支社様にご協力を頂き、同社「協創広場 U-cala(ユーカラ)」で行いました。最先端ユキビタス環境を具現化した空間で大型スクリーンや全面無線LAN設備を完備、開放的で洗練された空間には札幌軟石や美瑛産の落葉松等地場の素材を使用。またオフィス空間やコミュニティスペースの提案を行い、展示やイベントスペースも完備し見学可です。

今回のセミナーは研究テーマ『開口部・窓』に基づき窓メーカーとして有名なYKK AP様より住宅建材事業部 住宅パーツ・工法研究室 室長 白瀬 哲夫氏を講師に迎え『開口部から得る北のインテリアの可能性』をご教授頂きました。

住まいにおいての“窓”の新しい価値について研究されており、『風・光・音・眺・暮』の5つが生活デザインの重要な要素であり、これを“窓”の工夫で実現するという“窓採りデザイン”を提案されています。その中から幾つかご紹介させて頂きます。『風』: 風速により人間の体感温度は低下する。風向きに対し開口部が小→大の場合は風速が増し清涼感が得られ、大→小の場合は風速が減少し柔らかい風になるという性質がある。涼しさの要素＝風である。『光』: 季節や時間帯そして方角により光の性質は異なる。照明が普及していなかった時代、間取りは太陽の動きから考えられ、外の光を室内の奥まで届けるために襖や障子で仕切った個室が連続する間取りであった。現在は照明を併用する生活となり、前提条件が変わったため間取りも大きく変化した。紫外線は殺菌作用が、赤外線には発熱作用がある。暑さの要素＝赤外線である。『眺』: また、窓から空・植物・夜景が視界に入ると開放感が得られる。窓から見える景色で生活を豊かにする。丸窓や障子、高窓、地窓など窓を使って“見せ場”を作ることも効果的。『暮』: 窓際+収納の工夫で、限りある空間を有効活用。知的能力を向上させるには植物の存在が効果的。また、団塊ジュニア世代はLDK空間を重視しているとのニーズ分析の調査結果を、開放感・眺望・和の空間に対する要望が高く、親しい人との交流や絆を大切にすると紹介。全体を通し暮らしに関わる様々な要素について調査研究をされており敬服。

自然や気候の性質を知り、窓の位置や大きさの法則に基づいたインテリア計画によって、より豊かな暮らしをデザイン出来るという可能性があります。現代の住宅は高気密・高断熱であるからこそ光と風を考慮した開口部の設計が必要です。また、情報化や価値観の多様化に伴って今後住まいは“個人の価値観”によって性格づけられて行くと考えられます。これからはハード面以上にソフト面、的確で良質な『暮らしの提案』が求められていくのです。まさしくインテリアコーディネーターの番番！と言える時代の流れが来ています。今後どういった形で活躍の場を広めていくことが出来るか、能力を磨いて行けるか、時代のニーズを見つめると共に、歴史や自然から学び、新たな価値観を見出して行く必要があると思います。今回も非常に充実したセミナーでした。白瀬先生、ご参加ご協力頂いた皆様、有難うございました。暮研委員長・増永トータルインテリアキャンペーン イン 帯広

8月29日(水)11:00～17:00 帯広駅より北西に200mほど離れたイン・ザ・スイートで開催されました。1階ホールでは帯広ICクラブ皆さんのテーブルコーディネート展、各メーカーさんの情報スタジオのようなミニブースの展示と3つのミニ講座。(ワインを愉しむ・安井美裕氏。暮らしを彩るフラワーアレンジメント・小野弘忠氏。インテリアコーディネートの基本・多村佳志子氏。)2階では3つのセミナー(ICのスキルアップ・山本信氏。心を元気にする色彩・清原美枝子氏。暮らしから考える北のデザイン・増永佳奈氏。)とメインセミナーの三井ホームIC柴田路子氏による「海外インテリアトレンドレポート」。

帯広 TIC は実務に即役立つ事や教養・実技など盛沢山な内容で飽きさせず、次はこのセミナーという様に、1日楽しめる構成でした。また、当協会セミナー“暮らしから考える北のデザイン”参加の39名の皆さんは増永さんの落ち着いた静かな語り方に惹きこまれ、充実した時間を過ごして頂いたように思います。

会場のリゾートホテルのような明るい雰囲気と、終日貸切りで気軽に会場内を移動できることもあってか、セミナー、出展ブースを行ったり来たり学園祭のようなお祭りのような感じを受けました。またここは都市景観賞を受賞した結婚式場兼用ゲストハウスで建築・インテリアもICには楽しめたと思います。

イベント終了後は敷地内のレストラン、ザ・スーパで帯広ICCのメーカーさんや十勝の多くの方と当会が懇親会に参加しました。

帯広ICCの清原さんが懇親会の間中、会場内を所狭しと駆け巡り色々な方に一言インタビューをされていました。いくつものテーブルに別れていた会場に一体感が出来、和やかな楽しい雰囲気で懇親会を盛り上げられていたのも印象的でした。スタッフの皆さんは初めての開催ということもあり準備から大変なご苦労だったと思いますが、とてもICらしい素敵な雰囲気のイベントでした。中川さんはじめスタッフの皆様本当にお疲れ様でした。岸田

編集後記 秋の初めに取りかかり、まだまだ秋と思っていたが、5つつ寝るともう師走。やれやれ

編集委員長 中村ゆかり☺ スタッフ 増永佳奈☺ リカちゃん☺

トドス N2号

発行日 平成19年11月26日

発行人 北海道インテリアコーディネーター協会

札幌市東区北13条東1-1-10 j'sense 札幌

Tel:011-788-7055 Fax:011-788-9935

事務局 E-mail

hokkaidou-ica@hica.co.jp

発行責任者 中村ゆかり

平成19年度8～11月 活動報告

8月29日 帯広TIC・見学会

9月17日 第6回幹事会

9月26日 第2階暮らしから考える北のデザイン研究会セミナー

10月17日 第7回幹事会

11月7日 インテリア産業協会 スキルアップセミナー

11月21日 第8回幹事会

11月26日 トドスN2号発行

帯 広 見 学 会



帯広TIC参加に併せての開催となった今回の見学研修会は、JR 帯広市街から車で40分、河東郡中札内村にある中札内美術村を訪れました。145,000 ㎡という広大な敷地の中には鬱蒼と茂る柏林があり、4棟の美術館・1棟の展示館・レストラン・土産店(六花亭)そして彫刻作品やモニュメントが点在する柏林の中を、枕木の遊歩道を散策しながら見て回るスタイルです。六花亭のお菓子にある「まくら木」は、この枕木の遊歩道をモチーフにつくられているそうです。この日をしながら森を散歩している気分でした。帯広市内にあった「帯広湯」を移築した舎をモデルにした北の大地美術館、移築した佐藤克教現代木版画館、福井



はお天気が良く木漏れ日がとても綺麗で、森林浴そして歩いて行くと木々の間から見えてくる建物。相原求一郎美術館や、北海道大学構内にある牧牛1890～1900年に建てられた和歌山県の収蔵蔵を県の茅葺屋根の住居を移築した甘味所 花六花など、建築物も見所です。森の中に佇むその姿が周りの自然と調和し、また、室内の窓から見える景色も美しく、立地の魅力が活かされています。展示作品はどれも個性が光る秀逸なものばかりでした。作品と自然という二つの造形美に触れながら“感じ、考え、向き合う”時間。そのゆったりとした時間と空間を大切に味わうことで、豊かさに触れられたような気がしました。

美術村からの移動中、道の駅「なかさつない」に隣接する中札内村豆資料館『ビーンズ邸』に立ち寄りました。1952年に建築された種苗管理センター事務所棟を2005年に移築・修復し、十勝・中札内村の代表的な農作物である豆類を紹介する資料館として開設したものでした。豆畑拓男(通称ビーンズさん)という架空人物の自宅兼研究所と物語を設定し、資料展示や豆のマメ知識・豆料理の紹介、“豆”をテーマに集められたインテリアや雑貨が目を楽しませてくれます。ありふれた資料館ではなく、わかりやすく親しみやすい雰囲気作りが非常に新鮮で面白かったです。また、ビーンズ邸の隣にあった、大正末期に建築された農家住宅を移築・復元したという開拓記念館にも立ち寄りました。当時の間取りがそのまま残る建物の中には、家具や日用品、教科書や雑誌等を展示するスペースと蕎麦屋『蕎良』があり、懐かしい風情が漂っていました。このような地域の歴史に触れる“場”を道の駅に隣接させることで、より多くの人との接点が生まれる。街全体の積極的な取り組みが、地方そして地域の活性化にも繋がって行くのではないかと思います。古き良き建物を活かしながら、新たな可能性を産み出せる“インテリアのチカラ”。ここにも新たな可能性が息づいていました。とても有意義で充実した見学研修会でした。☞☺

「2007 スキルUPセミナー」開催

平成19年11月7日(水)13:00～16:00 ロイトン札幌(社)インテリア産業協会北海道支部からの依頼で当協会が協力しスキルUPセミナーが開催されました。山木さとみ会員、増永佳奈会員:心構えや接客マナーについてと顧客とのコミュニケーションについて。石原英祐会員:仕事(就職)のチャンスをどのようにして作ったのか、技術者からICへの転職体験を通じて見えたもの。石崎多鶴子会員:プレゼンテーションの必要性についてとプレゼンボード作成術。産業協会の戸川副支部長は企業の実状、佐藤運営委員長はどんな人材を望んでいるか、会員企業吉本氏は道内市況などIC資格を取得して日の浅い初心者の方々が業界の先輩からの仕事の心構えや体験談等を学びこれからの仕事の参考となるセミナーでした。

窓周りのインテリア その2 カーテンの縫製と提案

協力 畑山幸徳会員



・新築やリフォーム後に遊びに来てくれた知人に、壁の中の良さは見せられないがカーテンが良いと褒められるのはうれしいことです。ICには金額での提案(予算内で全窓に取り付けること)以外の提案も必要と思います。手持ちカーテンを子供部屋に縫い直し居間には新しいカーテンを取付けることや以前のカーテンをベッドスプレッドにしても喜ばれます。また、コンラクトの安い生地でもひだを付けると良い出来になります。

・カーテンは柄物など小さな生地では判断できないところがあり、昼と夜で見え方が変わるので気をつけて。お客様が好きな柄がある場合は最終的には満足するものを、ですが、こちらからこれが良いというの必要です。

・オーダーカーテンでもオーダーではない時も有る。ウエイトテープの錘を指定しても「持っていないから」できない事がある。また縫製仕様はメーカー毎に異なるので、1件の家で選んだものは自社契約の縫製屋さんの縫製。いうなれば作詞:メーカー、作曲:コーディネーター、編曲:畑山という役割でお客様にお聞かせするわけですね。本縫いは縫い目が見え、どんなに上手な縫いさんでも真直ぐ縫うのは難しい。すくい縫いが標準ですがレースは本縫いです。

・僕は生地を見て想像して何処にどれをつけたいか考えている。この生地であの種類のカーテンをつける、メーカー問わず組合わせを考える。柄が良くても薄い生地などもあるしね。窓の位置、ギボシやレールが付かないなど取付けする窓の状況や生地によってもデザインは変えていきます。☺:既存品の縫直しを受けてくれる会社を見つけよう！

次回トドスは正会員さんご紹介を予定しています。取材にご協力お願いします。:☺

218 三浦雅哉さん 219 安中美和子さん 220 墨谷展子さん 221 兵吾ちはるさん 222 伊藤美樹さん 223 北條牧子さん 224 大谷 薫さん 225 鈴木紀美江さん 226 戸田智代さん 227 平松美樹さん